

あなたも、  
わたしも、  
みんな、  
大切な人。



平成元年、美空ひばりさんが五十二歳でこの世を去ってゆきま  
した。

あの時多くの知人や友人が、

「ひばりさんはまだ若いのに、まだ歌が歌える歳なのに、早死  
にしてもつたいないことをした。惜しいことをした」

そんなことをおっしゃいました。

そんな中でただ一人、ひばりさんと親しかったというひとりの  
年離れた俳優さんが、こんなコメントをなさったそうです。

「ひばりちゃんは早死にしたんじゃないやありません。彼女は彼女な  
りにあの子の人生を燃え尽きて全うしたんです。わたしは褒めて  
あげたいです。彼女のことだから今頃は迦陵頻伽になって歌でも  
歌っているだろう。踊っているだろう。わたしも間もなくそちら

へゆく日がくるでしょう。その時は迦陵頻伽になったひばりちゃ  
んの歌が聴いてみたいです。ひばりちゃん、しばしのお別れです」  
胸に沁みる言葉でした。

生と死の壁をこえていのちが通い合う、そんな豊かな世界があ  
るならば、そんないのちの歌が歌いたい、そんないのちのお話が  
したい、そう思って私たちのグループの名前を『法話楽団・迦陵  
頻伽』と名づけ、法話と音楽を融合させた公演活動を行ってきま  
した。

迦陵頻伽とは、極楽浄土で妙なる美しい声で鳴いているという  
鳥の名前ですね。



その音色はそのまま尊い法の調べとなつていられるといわれています。

今回はこの場をお借りして、紙上演をあなたへお届けさせていただきます。

音楽を楽しむように読んでいただけたら幸いです。  
どうぞ、しばらくおつきあいください。